

県央経営者会 会報

第三十号
発行：平成25年6月



平成25年度県央経営者会総会開催

■日 時 平成25年4月22日（月）午後6時～7時40分
■会 場 厚木アーバンホテル 2階 レインボー

今年度の総会が、去る4月22日（月）に、厚木アーバンホテルで開催されました。当日の出席は60名で、委任状45通を合わせ105名の参加者数となりました。規約第23条の定めにより、会員総数の過半数を満たしているので総会は成立しました。

総会の司会は、総務委員会の井 寛明幹事が担当し、金 知出副会長の開会宣言により開会されました。まず、大泉会長の挨拶があり、小林 常良厚木市長と後藤 祐一衆議院議員からも挨拶をいただきました。総会議長は規約の定めにより大泉会長が務め、第1号議案から第4号議案まで滞りなく承認・可決されました。

第1号議案 平成24年度活動報告
第2号議案 平成24年度収支決算報告

ならびに監査報告

第3号議案 平成25年度事業計画（案）
の承認について
第4号議案 平成25年度収支予算（案）
の承認について



以上3社の発表が終了するとすぐ、全員がロビーに出て懇親会場の準備が整うまで歓談して過ごしました。懇親会は青年会の進行でにぎやかに始まり、先にDVDで発表した3名の追加説明などもあり、充実した懇親会となりました。

■KCSセンター相模海老名
院長 鈴木 仙一氏
代表 川村 舟平氏

■(株)饒田 リカーランドトップ
ワインバイヤー 水野 吉浩氏

中村 幹夫副会長の閉会宣言により総会は終了しましたが、すぐに会員会社3社の「DVDによる会社紹介と説明」会が開催されました。発表されたのは以下の3社です。

第40回例会「新春のつどい」

■日時 平成25年2月18日（月）午後6時より7時20分
■会場 レンブラントホテル厚木 3階相模の間



今回の例会は、甘利 明 経済再生担当大臣のお話を聞くため、一般の聴講者を募集して講演会を開催しようということで、準備を進めていたところ、急に総理官邸での閣議が入り、急きよ演者を変更するということになりました。それにしても、ピンチヒッターに立たれた国土交通省の池田豊人氏には大変ご迷惑をかけてしましました。御礼とお詫びを申し上げます。

さて、当口は講演者が変更になつたため、一般の参加者は少なくなりましたが、池田豊人氏が国土交通省の道路部長であり、その方面では著名な方でもあります。そこで、交通事業者や道路関係の仕事についておられる方たちに大勢参加していただきました。

例会は第1部「講演会」、第2部「新春のつどい」に分け、1部では参加自由という形式をとり、100名近い聴講者で用意した会場が一杯になりました。

総合司会は、あゆチャンネルの神崎 順子氏にお願いし、講演の後の懇親会では、毎年恒例になつた福引き大会が青年会の進行で行われました。今年の余興の目玉は「鏡開き」ということで当会では初めての試みでしたが、皆さん何回も経験されている方たちなので、滞りなく鏡を割ることができました。

■新春特別講演

テーマ「県央の交通インフラ整備」

■講師 国土交通省 関東地方整備局道路部長 池田 豊人様

1. 来る！人口減少時代

日本は人口減少の時代に入りました。岡の赤の線が今後の見込みです。これによると、2050年には1億人を切る。これから40年の間に2400万人から2500万人の人口が減っていく。1年あたり60万人減るということは、県庁所在地が1年に1つから2つなくなってしまうということになります。こういう風に考えると、人口減少がどれだけ激かかということが分かります。

この人口予測は外れにくいもので、人口の予測の要因は平均寿命と出生率です。人間の長生きできる年月はそんなに大きくぶれない。これに対して、交通需要予測は外れることが多いのですが、30年後40年後の人気が車に乗りたがるか乗らなければわからないか、その時代の人になつてみなければわからない。わからぬ部分が多いので外れる。

日本の中長期的発展を考えるには、人口の減る中でどう発展するかを考えるのが一番重要であると思います。

2. 人口減少時代の経済発展

経済の発展は、お金が回る量が拡大することであり、そのためには人や物が動く量も拡大することが

必要です。この場合、母集団である人口が減るということは不利な面があります。内需が減るだからダメ、という人もいますが、人口が減つても発展する道をどうやって考えるかがいま求められています。

そのためには、①1人当たりの動く量の拡大・魅力ある商品の開発や便利さ、ネット販売も考えられる。今まで行つたことのないところへ行く。そこと取引をするなど。②動ける人の拡大・高齢者や体が不自由な人、家庭環境の面から動きずらかった人を経済に参加してもらえるようにする。③海外の力を活用・今までになかった海外との交流を始める。海外の力を活用する。

3. 新たな経済交流の創出

これまでの経済交流は、海海交流で行われてきました。この県央地域は、海なのか山なのか難しいところですが、日本全体でみると海であり、神奈川県でみると海と山の両面ある。これからは、海海交流の拡大だけではなく海山、山山の交流、今まで縁のなかつたところ同士の交流を考えることが重要です。内陸と沿岸地域の交流、内陸地域と内陸地域同士の交流も必要です。



4. 新たな経済交流(1)

圏央道は、平成25年度末までに海老名～高尾が開通します。この開通による経済効果は相当あると考えられます。残りの部分はあと1年～2年で開通する予定です。東北道ともあと2年でつながります。このように各高速道路とのつながりは、あと2年くらいで70%から80%がつながつてるので、かなり広域的な軸ができることがあります。これがどんな新しい交流に結びついてくるかということを、以下に考えたい。

①「物流・観光」

埼玉地域からみると湘南との結びつきが重要であると考えられる。一方、県央地域は新たな交流先として、中央道筋、関越道筋、東北道筋にマーケットを見いだせるし、顧客の拡大につながるだろう。しかしこれは相手も同じように考えている。

②「防災の面」

防災の面から考えると、ヨコの線にタテの線が入れば逃げ道が確保される。

先日の笛子トンネルの事故により、山梨・長野は経済にダメージを受けました。それは甲府などはタテの線がない。一方でが切れる大変なことになる。災害が発生した時にタテの線が非常に重要ななってくる。

③「企業立地」

インベスト神奈川の制度を活用した立地ですが、これが南の方に進んできた。これと呼応して、さがみロボット産業特区が誕生しましたので、さらに産業の集積が進むことが予想されます。

④「新東名の開通と内陸東西軸の出現」

もつと広く見るとどうなるか。東名と交差している地点、静岡～名古屋～東海道筋を中心とした交流

が発生する。また、2年前ですが北関東自動車道がつながったので、これは東西に一つの軸ができたことになります。その軸を使って成田やその周辺の物流基地から西へ貨物を運ぶ業者も出てきた。県央地域としては内陸に経済の拠点ができるのを、取引相手がとられるところではなく、むしろ内陸の発展は県央の発展に結びつくと考えるべきでしょう。

4. 新たな経済交流(2)

ここでは、神奈川県の行政エリアとして見た県央地域は、神奈川県で見れば内陸になっています。ですから横浜のエリアとの交流、海との縁は昔からもあつたと思いますが、海沿いとの交流がこれからさらに重要になるとを考えられます。国道246号厚木秦野道路についてですが、ようやく本格的整備に着手したようで、われわれとしても地元の方々の要望にきつと応えていきたいと思います。

③蓮田SA スマートIC

蓮田のサービスエリアから降りられるところに計画したものです。スマートICは使つ

てみると便利だということで、平均すると計

画時より倍くらいの需要が生み出されている。県央地域でも綾瀬にスマートICの計画

が進んでいます。

7. 新たな魅力を活かすインフラ(2)

最後に、新たな魅力づくりには人を呼んで来られる拠点を造ることもあるが、まち自身の作り、工夫が必要ではないか。例えばバス停にセンスの良い看板をつけることによって、よその人から良いなと言われるような景観のまちにする。グレードアップされたような感じがあるのではないか。大阪の御堂筋では、街灯にフラッグをつけてしゃれた感じをしている。このように、公共空間はにぎわいに活用できるのではないか。まず、公共空間からトライアルをして、他の場所のグレードアップにつなげたら

②新東名 駿河湾沼津SA

この沼津のサービスエリアは新しいコンセプトで作られており、大変にぎわっています。圏央道にもサービスエリアができるので、この地域ならではの魅力ある商品を置くという働きかけも重要です。

6. 新たな魅力を活かすインフラ(1)

都市の魅力とはハードだけではないが、ハードで応えられるものがあります。それは道の駅であり、サービスエリアやスマートインターチェンジを造ることで、人を引っ張って来られる。

①八王子滝山道の駅

道の駅は全国で約1000か所になりました。神奈川県にはまだ2カ所か3カ所しかな

小田急電鉄(株)代表取締役会長 大須賀 賴彦氏と会談

■平成25年3月21日(本厚木 千の庭)

■出席者 大泉会長、飯田副会長、日黒会員、
事務局 福島

この会談は、大山阿夫利神社の日黒宮司の肝いりで開催されました。大須賀会長はもともと伊勢原在住で、かねてより大山のイベントに小田急電鉄さんが協力してきた経緯があります。また、県央経営者会としては今まで小田急電鉄さんへ種々の陳情をしてまいりましたが、近年担当者が変わったりしてなかなか訪問できない状況になつていきました。しかし今回、大須賀会長との直接パypeができたことにより、会の10周年に向けて良い発信ができそうな、そんな雰囲気を作ることができました。

前回訪問より3年が経過し、相模鉄道さんとのつながりをもつとしつかりしておこうという、飯田交通委員長の考えで実現しました。面談したのは、経営管理部経営企画担当課長 鈴木昭彦氏と経営企画担当係長 丹家清一氏でした。相鉄さんとしては現在東京方面との相互乗り入れ計画が進行中で、小田急さんとの相互乗り入れについては以前ほど積極的ではないと感じました。しかし、これを機会に今後は頻繁にお会いできるようにしたい、との要請には了承をいただきました。



相模鉄道(株)訪問

■平成25年3月6日(相鉄本社)

■出席者 飯田副会長、北村幹事長、霜島幹事、
事務局 福島

前回訪問より3年が経過し、相模鉄道さんとのつながりをもつとしつかりしておこうという、飯田交通委員長の考えで実現しました。面談したのは、経営管理部経営企画担当課長 鈴木昭彦氏と経営企画担当係長 丹家清一氏でした。相鉄さんとしては現在東京方面との相互乗り入れ計画が進行中で、小田急さんとの相互乗り入れについて以前ほど積極的ではないと感じました。しかし、これを機会に今後は頻繁にお会いできるようにしたい、との要請には了承をいただきました。

青年部主催 ちよい呑みフェスティバル



第1回「本厚木ちよい呑みフェスティバル」が5月7日(火)～9日(木)に開催され、3日間で延べ4,000人の参加者がありました。県央経営者会の講演者・神奈川県新産業振興課長 高澤 幸夫氏

(地域活性化委員会伊勢原地区部会長 田中 由起)
■平成25年5月10日(伊勢原シティープラザ)
「県央経営者会と産業能率大学との
協同プロジェクト」開催される

青年会会員のお店も積極的に出店に
参加し、大いに厚木の街のにぎわい
に貢献しました。

バラ園開園式が盛大に行なわれる

■平成25年6月8日(相模川旭町スポーツ広場)

平成22年に、県央経営者会が首領をとり神奈川県、厚木市商店会連合会、地区自治会の参加を得て、「相模川景観づくり推進会」が発足しました。以来3年が経過し、法面だけでなく河川敷にもバラを植栽した結果、今回素晴らしいバラ園が開園することになりました。このバラ園の名称は、一般から募集した「相模川ローズガーデン」に決定し、提案者の上野作枝さんに賞状・賞品が授与されました。

開園式には約500名もの一般参加者があり、小林市長はじめ県政総合センターの納谷所長も黒岩知事の名代として駆けつけていただきました。また、

式典終了後、ハイヌーンJAZZコンサートが定仙 哲也ジャズカルテットにより開催され、大勢の参加者は飲んで花を愛でて、ジャズを聞くという大変贅沢な時間を過ごすことができました。



「第41回例会」のご案内

事務局便り

日 時 平成25年7月3日(水)午後6時より
場 所 レンブランホテル厚木 2階 晩紅の間
テ ー マ 「さがみロボット産業特区」のメリットと今後の展開